椰子の樹
長野県ニューギニア会 会報
第21号
平成29年6月20日発行
長野県小県郡青木村村松
発行人　本田昌彦
印　刷　杏花印刷

ウエワク湾

日本軍が、東部ニューギニア進攻の拠点としたウエワク。昭和18年1月から10月にかけ約4万人の将兵がここから上陸した。第18軍隷下部隊では猛・朝・河部隊で、終戦まで守備を全うした。（ウエワク半島台上から湾を望む）

戦没者遺骨収集派遣に参加して

長野県ニューギニア会　会長　本田昌彦

日本遺族会は「東部ニューギニア戦没者遺骨収集事業」の一環として、2月8日から16日間、パプアニューギニアの各地で遺骨の収集作業にあたり、112柱を日本へ奉還した。

長野県ニューギニア会の本田昌彦会長は、派遣団の一員として現地に赴き、ポンデッタ、ラエ、ウエワク地区などで業務に従事しました。

「現地ニューギニアで収集したご遺骨を日本にお連れしたい」との長年の念願が叶い、日本遺族会の代表の一員として、遺骨収集の派遣団に参加し、貴重な体験をすることができましたことに先ずもって感謝いたします。今回遺骨の試掘地は、首都ポートモレスビーの北東ポポンデッタ（オロ州の州都）から車で1時間のバゴー集落でした。ここは、ニューギニア戦初期の昭和17年夏、豪・米連合軍と南海支隊とで激戦が繰り広げられ多数の戦死者（1万人余）が出た所です。

バゴー集落の試掘場所は三家族が住んでいる軒下や庭先など10か所が指定され、作業員として住民30名を雇用して作業に入った。開始間もなく、鉄兜（かぶと）を被（かぶ）ったままの頭骨が掘り出されたのを皮切りに、頭蓋（がい）骨・大腿骨と完全一体の遺骨が次々と収容され、2体が折り重なった状態の大腿骨も発掘され、又銃剣・小筒・万年筆など多くの遺留品も見つかった。

戦後70年もの長き年月が経ち「南方の遺骨は既に土に還ってしまっているのではないか」との懸念を払拭するような完璧な状態で残されているのを目の当たりにし、大きな衝撃を受けた。この周辺からは8柱の遺骨が収容されたが、いずれも深さは1m足らずと浅く、見つかった位置関係はほぼ一直線上にあった。塹壕の中で戦闘中に亡くなられたものではないかと想定された。余りにも長い歳月祖国日本より遠く離れた異国の地の土の中で、どのようなお気持でお待ちになられていたのかなど思いめぐらすと、ただご遺骨に合掌しご冥福を祈るのみでした。

今回は東部ニューギニア全体で112柱のご遺骨を祖国へお迎えし、2月23日に千鳥ヶ淵戦没者墓苑に納めました。

今年度も遺骨収集事業が実施されます。当会の会員の皆様もお元気なうちにご参加され貴重な体験をされますようお勧めします。

日本遺族会の計画ではソロモン・マリアナ諸島、東部ニューギニア地域は10月から12月にかけ遺骨収集団を派遣します。参加資格は、原則年齢制限はなく現地での作業に従事できる方、県遺族会事務局で申し込みを受けつけます。

スケッチ画　稲垣 一良

未送還遺骨収集について

会長　本田　昌彦

東部ニューギニアにおける戦没者遺骨収集状況（平成29年1月現在）は死亡者数約12万8千人、遺骨収容概数約5万1千柱、残存遺骨7万6千余と帰還率は40％に満たない。

戦時下国外で戦死した兵士の遺骨「白木の箱」には紙や小石しか入っていなかった。日本人にとって遺骨は、大切な人の死を受け入れる過程で極めて重要であり、「1日も早く、1柱でも多く祖国へ」の遺族の悲願を実現すべく、遺骨収集事業は政府の責務として全力を上げて取り組んで頂きたい。

遺骨収集事業は時間との闘いである。残された遺児達も古希を超す年齢となり父母や奥様達も殆ど鬼籍に入られ、今後は孫世代に引き継がれることになる。一方、南方における遺骨は年々土に還りつつあり、収容事業は一刻の猶予も許されない状況です。今回から厚生労働省の指定法人「遺骨収集推進協会」が派遣事業の主体者として当たります。この法人は設立後間もないこともあり、課題が山積みしており、今後の推進体制の整備・強化が求められます。そして、効率的な収集活動を行うためには、現地での事前の遺骨情報収集に伴う先遣調査派遣回数の増加が最優先課題と再認識しました。

今回もJYMA日本青年遺骨収集団から大学生2人がボランティアで参加し、大いに助けられました。35度を超える炎天下、汗と泥まみれになりながら遺骨を掘り出し、整理してもらうなど若い力が頼りになりました。感謝です。

古希を過ぎた遺児たちが、戦争で死んだ、記憶が殆どないか、全くない自分の父親の遺骨を探し続けている。南方の密林に戦没者の遺骨は沢山眠っている。

どうしてそんなことになったかを含めて私達は知り、後世に語り継がなければならない。それがあの戦争を経験した人たちに連なる者の責任であると改めて感じました。

東部ニューギニアから112柱奉還
現地で焼骨・追悼式を挙行

遺骨収集

発掘作業に協力した現地人
作業に献身的に協力したバゴー集落の皆さん

オロ州政府表敬訪問
州副行政官と握手する本田会長

追悼式終了後、中島大使ご夫妻と、遺族会代表の記念撮影

「戦没者の碑」にて追悼式斎行
在PNG日本国・中嶋敏大使も参加して追悼式が行われた（ウエワク慰霊の森）

ウエワクホテル前での焼骨式
点火者が前方の櫓に火入れをする。焼骨後骨上げしてホテル内の特別室に安置された

モロベ州ムヤ地区での焼骨式
ヘリコネアの花に囲まれた祭壇の奥に19基の櫓が組まれた

追悼文書綴 昭和館で閲覧

平成26年慰霊碑改修時に開封されたタイムカプセルの内容物のうち、当時の思いを綴った引き取り者不在の追悼文400通余りの処遇に、苦慮してきましたが幸いにも「昭和館」に引き取って頂くこととなり（「椰子の樹」19号既報）諸事の作業も終わりようやく公開閲覧の運びとなりました。

追悼文は3冊のファイルに分け、不備だった市町村の混在を整理して順番を整えて頂きました。

ファイルは閉架資料として書庫にて保管され閲覧請求があったら書庫より出して見ることができます。

閲覧するためには昭和館図書室の利用者登録（受付カウンターにて住所・氏名の記載）が必要となりますが、ファイルは、市町村ごとに見出しを付け本や雑誌の目次にあたる情報として市町村名と、書いた方のお名前を入力してありますので、お名前で検索して頂くことが可能です。

40年以上前の情報とはいえ詳細な住所の記載も見られ複写禁止資料とのことですが、ご遺族からの申請があれば、別途対応可能とのことです。

些細な物ながら、応分な場所で後の世まで保管され誰彼となく見て頂き、そしてその人の胸の内にどんな小さなものでも、何かが宿って頂けたらと…。

特別寄稿

長野県遺族会「青年部」結成の経過と現状について

（一財）長野県遺族会　会長　横田 久

長野県ニューギニア会の皆様には、日頃から県遺族会の事業にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、戦後72年が経過し、戦没者遺族の高齢化も著しく、県遺族会の会員数も、戦後間もない時期の5万1千人から、現在は1万4千人を割り年々減少を続けています。

このような現象の中、本会の使命は英霊の顕彰と戦没者遺族の福祉の向上であることに変わりはありません。それには、本会の組織をしっかり継承して行く後継者づくりが必要となって参ります。

そこで本会では、全国でも早いうちに、後継者となる戦没者の孫・ひ孫世代を中核とした青年部の組織化に取り組み、一昨年の11月に青年部を結成し、青年部員も結成時から23名増えて、現在は123名となっています。

青年部の活動につきましては、まだ組織として活動するまでには至っておりませんので、当面は各市町村で行う戦没者の慰霊祭や本会が行う戦没者遺族大会等の行事へ進んで参加していただき、まずは遺族会の事業を覚えていただくことだと思っています。

本年3月には、日本遺族会でも青年部が結成されました。これを契機に、本県でもまだ12群市で青年部が結成されていない状況等もあり、更なる取り組みが必要であると考えておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

東部ニューギニア戦没者遺骨引渡し式

日本戦没者遺骨収集推進協会主催の東部ニューギニア遺骨収集団が2月22日に帰国し翌23日千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて引渡し式、及び解団式が執り行われた。

派遣期間は2月8日～2月23日までの16日間で団員構成は、推進協会1名、日本遺族会4名、東部ニューギニア戦友・遺族会4名、JYMA（日本青年遺骨収集団）2名の合計11名、新たな収容遺骨112柱とともに全員が元気に帰国された。

当会では本田会長がこの事業に積極的に参加され、無事に所期の目的を果たして帰国された。

当日帰還報告会が12時より昼食を挟んで靖国神社啓照館にて開催され、遺族及び堀江会長、西山・橋両元ニューギニア大使ら関係者90名近くが参加し、派遣団の現地報告にそれぞれが自分の肉親に思いを重ね感慨深げに聞き入っていた。

また5月29日には同じく千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて、東部ニューギニアの112柱を含む世界各地より収容した2453柱の納骨式にあたる「拝礼式」が、常陸宮同妃両殿下をお迎えし、内閣総理大臣をはじめ遺族代表、各政党代表、関係国駐日大使及び関係者が花を献じて御霊を鎮めて終了した。

これにより千鳥ヶ淵戦没者墓苑に収められたご遺骨は累計、36万7千328柱となった。

現地慰霊巡拝団募集

★出発日　8月23日（水）
★帰国日　8月30日（水）
★訪問地　ご参加される皆様の縁の地が第一と考えその地を主催者に申告しご相談し、満足のいく慰霊の旅にしてください。
★旅行経費　46万～50万
★募集人員　15名
★主催会社　（株）WBC　☎03-3588-0771
★募集締め切り　7月末迄
申し込み・問い合わせ先　事務局・大久保
☎026-286-2810

平成29年度第49回通常総会の報告

第49回通常総会は、2月11日信州浅間温泉・ホテル「みやま荘」で開催されました。

総会は、午後2時に成澤副会長の開会のことばに続き、南十字星のもとに眠る多くの英霊と、会員物故者に対して黙祷を捧げ始まりました。

たまたま現地遺骨収集派遣団の一員として東部ニューギニアに赴いている本田会長の挨拶文を小池副会長が代読、その中で会長は「戦後72年を経て先の大戦の記憶が徐々に薄れていく中、昨年度は意義深いトピックスが3つありました。一つは、天皇・皇后両陛下が太平洋戦争の激戦地、パラオを慰霊訪問されました。二つ目は、アメリカのオバマ大統領が、初めて広島市を訪問されました。三つ目は、安倍首相が日米開戦の舞台となったハワイ真珠湾を訪れ慰霊を行ったことです。これらの出来事を通して、再び忌まわしい戦争を繰り返すことなく、平和で安定した国を構築することの意義を再認識した有意義な年でした。

会の活動状況を振り返りますと、2月の総会に始まり、7月の慰霊大祭、8月の現地慰霊巡拝など主要な行事は、皆さまのご協力により無事に実施できました。会員の高齢化と減少の流れは止めることはできませんが、会としての運営は当面は心配ありません。無理をしないで、可能な範囲での活動を実行することによって、ニューギニアで亡くなられた御霊のご供養を、できるだけ長く続けていきたいと願っています」との思いをつづっていました。

引き続き、会則に従って小池副会長が議長席について議事に入り、平成28年度事業・決算報告、平成29年度事業計画・予算案について、長田副会長、大久保事務局長から説明があり、審議の結果いずれも原案通り可決承認されました。（会員数311、出席18、委任状198）

総会冒頭、護國神社に向かい黙祷を捧げる

■平成29年度　主な事業計画

一．第49回ニューギニア方面戦没者慰霊大祭
　平成29年7月30日（日）
　長野県護國神社（松本市）
二．第38回東部ニューギニア方面慰霊巡拝団派遣
　第4回西部ニューギニア方面慰霊巡拝団派遣
　8月末～9月上旬
三．会報「椰子の樹」発行
　ホームページの管理運用

■平成29年度予算

総額　3，678，752円

主な予算（単位　千円）

慰霊大祭費	492
慰霊巡拝費	450
総会費	330
役員会議費	255
広報費	259
交際費	110
事務費	125
予備費	100

■平成29・30年度役員

会長　本田昌彦ほか全役員が28年度に引き続き留任しました。

第49回ニューギニア方面戦没者慰霊大祭のご案内

本年も恒例のニューギニア方面戦没者慰霊大祭を左記のとおり開催いたします。

先の大戦から72年の歳月を刻んでまいりました。会員の高齢化が進む中で、絶えることなく慰霊祭を続けております。

毎年、酷暑の中での開催ですが、灼熱のニューギニアに思いをはせ、ご英霊の冥福をお祈りいたしましょう。健康に留意され、大勢の皆さまがご参列されるようお待ちしております。

▽平成29年7月30日（日）　正午より
▽長野県護國神社　松本市美須々6－1
▽受付　美須々会館にて　10時30分より
▽美須々会館が控室になっています。
　お茶は準備いたしますが、昼食は各自ご用意願います。
▽その他　例年のとおりです。

お気軽にお立寄り下さい。
協賛会員
画廊喫茶　ゆえ
長野市岡田町166－1　森ビル1階
至長野県庁　中央通り　至長野駅　ゆえ　長野放送　八十二銀行本店　バスターミナル　R19号
☎(026)225-0221

椰子の実

☆水無月も後半、21日は夏至梅雨の真っ盛りで長雨が続きます。北半球では一年中で昼が最も長く、夜が最も短い日旧暦では夏の真ん中です。雨の日はうっとうしいものですが、しとしとと降る雨は大地を潤し、新緑がまばゆいこの時季、万物の生命の息吹を強く感じます。

☆日本とパプアニューギニアの友好関係が年ごとに深まる中で、今春、両国の大使の人事異動がありました。駐日PNG大使館のガブリエル・ドウサバ大使が離任、在PNG日本大使館では松本盛雄大使が転出、後任の中嶋敏大使が着任しました。

ドウサバ大使は、約6年間に渡り、両国の関係強化に尽力され、一昨年安倍総理のPNG訪問を実現させた。

LPG（液化天然ガス）の輸入や投資協定の締結をはじめとした二国間ビジネスの発展に向けての功績が高く評価されています。

☆広報委員会の竹村淳委員は、体調を崩して加療中、「昭和一桁生まれのジャーナリスト」を自認する信念の人だけに早期復調を祈ります。

（K）